

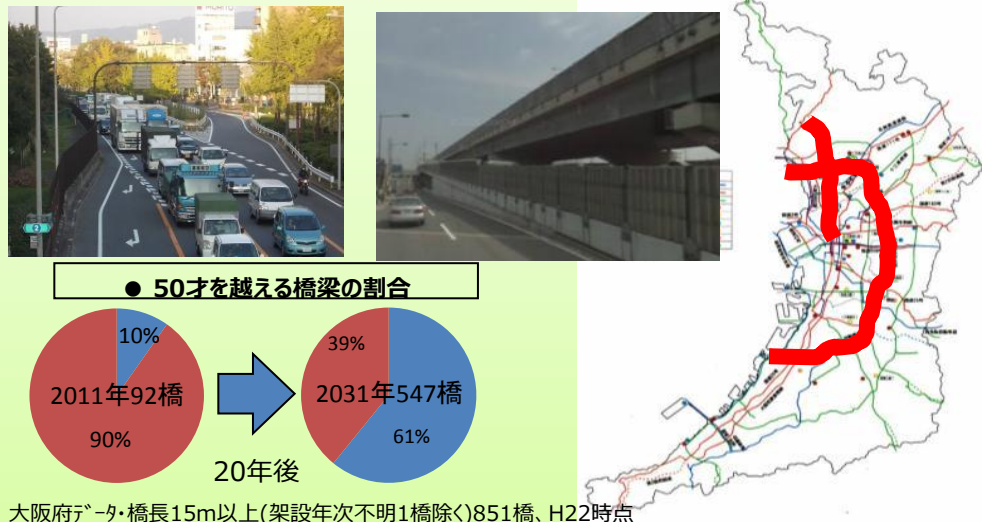
# 「(仮称)大阪府都市基盤施設長寿命化計画」(素案) 中間とりまとめ 道路・橋梁等部会 検討概要

道路・橋梁等部会

## 《 現 状 》

### ◇道路(橋梁)

- ・昭和45年の大阪万博開催にあわせ、国道423号(新御堂筋)、大阪中央環状線など、主要な幹線道路が完成。
- ・主要橋梁(橋長15m以上)のうち43%が、昭和45年までに完成。



## 新たな課題

## 《 維持管理の取組 》

### ◇維持管理アクションプログラム(H17策定)

日常的維持管理と計画的維持管理を区分し、維持管理業務を明確化

### ◇各種点検要領の策定(H14舗装、H11:橋梁(H25改訂)、H21:トンネル)

### ◇全国アセットマネジメント担当者会議の設立(H17～)

アセットマネジメントの積極導入に向けた全国組織

### ◇橋梁長寿命化修繕計画(H21策定)

劣化予測手法を確立

### ◇施設の長寿命化に資する予防保全対策等を強化(H23～)

・H22: 90億円 → H25: 130億円(約1.5倍増)

## 《 課題: 効率的・効果的な維持管理の推進 》

### ◇安全に対する視点

・舗装の陥没、トンネル背面変位、橋梁内部など不可視部分における不具合への対応

### ◇効率的・効果的な維持管理に対する視点

- ・道路法施行規則改正を踏まえた点検頻度の軽重
- ・施設種別毎の最適な補修タイミング
- ・予測計画型保全の橋梁、舗装について劣化予測精度を向上
- ・大阪中央環状線など大幹線道路の更新時期の見極め

## 《 課題: 持続可能な維持管理の仕組みづくり 》

・施設の老朽化に伴う補修や更新が増加する一方、担当職員が減少

## 《 効率的・効果的な維持管理の推進のために講ずべき主な施策 》

### ◇点検、診断、評価の手法や体制等の充実

致命的な不具合を見逃さない安全の視点と施設の長寿命化を図るための確実性の視点を踏まえた手法の導入

- ・全橋梁(コンクリートボックスカルバート含む)に対する近接目視点検の導入
- ・定期点検(5年に1回)に加え、施設の状況(経過観察・補修後等)に応じて中間点検の導入や直営点検の実施
- ・不可視部分の点検の導入 ⇒ 道路路面下の空洞調査(道路陥没を未然に防ぐ)、走行型画像レーザー計測(トンネルの相対変位を測定し変状を確認) 橋梁床版の走行型レーザー計測や小型カメラによる箱桁内部調査の導入 PCケーブルの電磁波を利用したモニタリング調査の導入(大阪中央環状・R423)等
- ・昨今の街路樹腐食による倒木事故を踏まえ、街路樹の特性を考慮し、第三者への影響が大きい樹木について、樹木医による詳細点検の導入

### ◇施設の特性に応じた維持管理手法の体系化

維持管理手法の設定(予防保全対策の拡充、補修時期の最適化)

- ・施設毎の目標管理水準の設定 ⇒ 橋梁: 健全度70点以上、舗装: MCI<sub>5</sub>以上、コンクリート構造物・トンネル: B 法面防災: 危険度70点以上箇所は要対策、40~69点箇所は状況観察等
- ・点検結果による劣化予測の蓄積と更新を実施し、路線橋種毎の劣化予測など精度向上を目指す
- 更新と長寿命化(部分更新・補強・補修・通常管理)との考え方整理
- ・設計仕様(大型車荷重・幅員)上の機能不足、健全度、管理の難易度(構造上)、工事規制の社会的影響度を総合的に勘案し、更新・長寿命化の考え方を体系化 ⇒ 不可視部分の多い維持管理困難な橋梁や短期間で比較的容易に更新が可能な小規模橋梁等は、更新に向けた詳細な検討を実施
- ・倒壊の発生など社会的影響が大きい道路照明灯や大型案内標識については、時間経過による更新を検討
- 重点化指標・優先順位の考え方
- 健全度や社会的影響度(交通量・代替性・広域緊急交通路・バス路線等)から重点化指標を数値化し、点検頻度や補修の優先順位化を図る ⇒ 法面防災の要対策箇所につき、優先度に応じた点検密度を設定し、優先度評価に基づき10年で対策

### ◇日常的な維持管理の着実な実践

劣化を抑制し、長寿命化に資するきめ細やかな維持管理・修繕作業を直営作業も含めて計画的に推進

⇒ 橋梁排水施設の清掃による確実な排水処理の担保、凍結防止剤の洗浄による塩害の抑制、橋梁支承の塗装やグリスアップ、舗装面のクラック部への補修材の注入等による構造体劣化の抑制を日常的に実施

### ◇道路老朽化対策に向けた車両の通行適正化

橋梁の寿命を延ばすための過積載車両の抑止措置を展開(大型車通行の適正化)

### ◇維持管理を見通した新設工事上の工夫

橋梁下部工検査路の設置の検討、維持管理しやすい構造の採用など

## 《 持続可能な維持管理の仕組みづくりのために講ずべき主な施策 》

### ・人材の育成と確保、技術力の向上と継承

橋梁テクニカルアドバイス制度(NPO、大学連携)の活用により、市町村も含め土木事務所単位の橋梁点検技術講習会の実施や技術相談の仕組みを構築

### ・現場や地域を重視した維持管理の実践

府内の道路管理者が情報共有、技術連携する場となる「道路メンテナンス会議」の設立(H26.5)

### ・維持管理業務の改善と魅力向上のあり方

道路法施行規則改正(点検(5年に1回)の義務化)を踏まえ、市町村と連携した橋梁点検など地域一括発注の検討